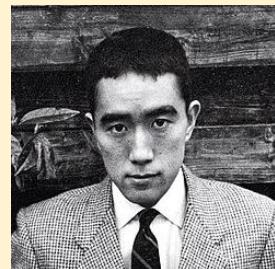


令和 1 年度 大学塾 第 2 ステージ 開催報告

生誕 100 年 三島由紀夫 の生涯と文学散歩

1925 年の誕生から 2025 年は生誕 100 年となるにあたって、改めて鬼才「三島由紀夫」の 45 年の人生と、その文学はなんだったのかを探り、三島が綿密に取材して残した畢生（ひっせい）の大作『豊饒の海』（全 4 卷）の舞台を訪ねます。



30 歳の三島由紀夫『文藝』1955 年 4 月号

毎回土曜日 午後 2 時～午後 4 時

講 師：大沢 正明 氏 江戸文化歴史検定一級 奈良まほろばソムリ工検定 ソムリ工級
日 時：9 月 6・13・20・27 日（土曜日）全 4 回 午後 2 時～4 時
会 場：足立区生涯学習センター（学びピア 21 内）5 階 研修室 1
講 義 内 容：第 1 回 誕生から処女作まで
第 2 回 戦中からその地位の確立まで
第 3 回 世界の三島文学の完成と死まで
第 4 回 『豊饒の海』の舞台を訪ねる

令和 6 年度 あだち区民大学塾 「講座実施報告書」完成 皆様の協力で、講座実施報告書が出来上がりました。



令和 6 年度に実施した「あだち区民大学塾」講座数は 10 講座で累計 302 講座、延べ受講者数は 27,750 名となりました

講座の企画・運営に参画頂きました多くの会員の方たちの活動集大成として、また、関係各所の多大なご協力を頂き 52 頁に及ぶ講座実施報告書が完成致しました。
ご協力を頂きました皆様には改めて御礼申し上げます。
講座実施報告書は、足立区地域文化課 生涯学習支援課長 江連嘉人氏、足立区教育委員会教育長 中村明慶氏、足立区総務部長 松野美幸氏、に報告書を持参、事業が無事に遂行できましたことのご報告を致しました。

（あだち区民大学塾 事務局）



令和7年度 大学塾 第2ステージ 開催報告

古代の足立 ～足立区北部の遺跡群～

7月3日・10日の2日間にわたり足立区生涯学習センターにて開催された。応募者44名、受講者41名延べ受講者70名、であった。講師は足立区地域文化課文化財係学芸員の佐藤悠香氏・増田静香氏の両氏。毎回、豊富な資料を基に詳しく分かり易く解説されました。

第1回 伊興遺跡・白旗塚史跡の遺物から学ぶ



第1回は、生涯学習センターにおける座学で、埋蔵文化財発掘についての基礎と足立区北部の遺跡出土品と白旗塚古墳について解説が行われた。第1部として日本の古代の時代区分と特に足立区の遺跡の中心となる古墳時代について解説され、考古学・遺跡・埋蔵文化財行政など、古代史の基本的な学習が行われた。第2部からは足立区内の遺跡について成り立ちや分布が説明された。足立区の地形は下総丘陵・大宮台地・武藏野台地に3方を囲まれており、残り1方は海が迫っていた。5000年前はほぼ海中にあり、2000年前に伊興周辺は陸地化したと言われている。

古利根川・元荒川・毛長川からの土砂が堆積して、自然堤防の微高地ができる、伊興地区に集落ができる。足立区の歴史は古墳時代以降である。遺跡名としては舍人遺跡・法華寺境内遺跡・花畠遺跡がある。舍人遺跡からは方形周溝墓が、法華寺境内遺跡からは線刻土器が、花畠遺跡からは軟質土器の平底鉢や陶質土器の高杯が発見されている。第3部は伊興遺跡と白旗塚古墳で1879年の経塚の発見から始まり、1950年代伊興で3度にわたる発掘調査が行われた。方形周溝墓や須恵器・手づくね土器が発見された。1989年からは4次の調査が行われ、古墳時代のイネの珪酸体・木製農具・井戸枠に転用された舟・朝鮮半島の陶質土器・奈良時代の住居跡・1万点以上の土師器・ウマの遺存体・平安時代の住居跡などが発見された。白旗塚古墳は足立区に残る唯一の古墳で、1991～1992年に1次調査が行われ、円筒埴輪・女子埴輪・男子埴輪・馬形埴輪・銅製耳環等が採集されている。最後に①遺跡は地中にある②発掘調査が必要③開発が進むと全容解明が難しい④調査には関係先の理解が必要と纏められた。

(糸井史郎)

第2回 遺跡を歩く～伊興遺跡公園展示館・白旗塚史跡公園～（現地学習）

第2回は、第1回に学んだ出土品や古墳を現地学習で確認した。熱中症予防のため全員バス移動で2グループに分け、Aグループは地域文化課文化財係 学芸員佐藤悠香氏・Bグループは地域文化課文化財係学芸員増田静香氏に解説して頂きました。

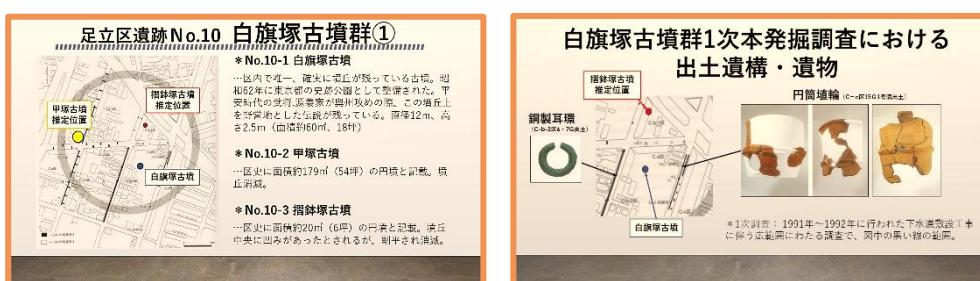
白旗塚史跡公園

① 史跡公園として整備されるまで

白旗塚古墳は、城東地区において、現存する稀少な古墳であり、昭50年に東京都の指定史跡となる。その後に、地元の方々から公園化の強い要望があったため、周辺の地権者と区教育委員会の交渉を経て、昭和62年に公園としてオープンした。（『足立区風土記稿 地区編10 伊興』より）

② 白旗塚古墳群の指定範囲と甲塚・摺鉢塚

白旗塚と現存していない甲塚・摺鉢塚の推定位置が含まれる直径約250mの範囲が遺跡として指定なっている。[かぶと]・[すりばち]は古墳の形状に似た物として古墳の名称に良く採用されている。



(3頁から続く)

令和1年度 大学塾 第2ステージ 開催報告

古代の足立 ～足立区北部の遺跡群～

③ 出土埴輪と後期群集墳の可能性

白旗塚古墳群内での過去の発掘調査では、未知の古墳に伴っていたと考えられる円筒埴輪片が遺跡内の複数地点から発見されており、いずれも6世紀の特徴を持っている。『足立区北部の遺跡群 1998』でも記載があるが、周辺一帯に後期群集墳が営まれた可能性がある。

④ 新編武蔵風土記の記述

江戸時代、白旗塚の墳丘の古松が嵐で倒れた際に根元から出てきた太刀を家に持ち帰り蔵に収めたが、その後家族も大病したため、祟りと畏れたという謂れが伝わっている。

⑤ 公園内オブジェ（埴輪・方角の石）

白旗塚史跡公園内には、武人・舟形・家形・馬形の4種類の埴輪のオブジェが設置されているが、武人・舟形・家形の埴輪はこれまでに区内遺跡内では発見されていない。また、東西南北が神代文字（？）で書かれている石×4があるが、当時の公園整備の際に置かれたオブジェであること以外は詳細不明である。

伊興遺跡公園展示館

① 遺跡として指定されるまで

昭和25年、当時東伊興にお住まいだった故.西垣隆夫氏が多数所有していた収集遺物を故.大場磐雄教授が資料調査したことが契機となって、昭和32年に初めて伊興遺跡内で学術的な発掘調査が行われ、昭和61年に伊興遺跡は遺跡として指定されるに至った。

② 足立区内の標高と遺跡分布

足立区は、北～北東部にかけて標高が高く、南～南西部にかけて標高が低くなる傾向があり、低平でありつつも緩やかな傾斜があるというのが特徴。遺跡は、北部に多数分布し、南東部にはほぼない様相が見て取れ、両者の間には密接な関係があることが分かる。

③ 足立区の縄文時代・弥生時代

縄文時代：縄文海進という温暖な時期が比較的長く続いたため、区内で陸地化していた場所がそもそも少なかったため、人が集住することはなく時が経ったものと考えられている。

弥生時代：弥生小海退という寒冷化の影響とみられる遺跡の減少が周辺地域であったため、区内でも集落が形成されることもなかったと考えられている。

④ 古墳時代の集落の特徴

弥生時代から古墳時代への過渡期である3世紀末に低地地域への進出(稻作の振興の為とされる)がなされ

現在伊興遺跡に指定されている範囲内でも、そういった流れの中で集落の形成がなされたと考えられている。

主に古墳時代中期の5世紀頃に石製模造品(鏡・勾玉・剣の3種類)や本物の土器の10分の1以下しかない大きさのミニチュア土器などを用いた祭りが盛んに行われた祭祀場であったということ。

また、当時のヤマト王権との繋がりが見いだせる須恵器・子持勾玉などの貴重な遺物の出土から関東の中でも要衝として見出されていた場所であることが伊興遺跡の大きな特徴といえる。

(*土師器(野焼き)と須恵器(窯焼き)は製法や用途に違いがあります)

受講者のことば

・現地で実際に出土したものを見て足立区の昔を想像するのが楽しかった。いにしえから人の営みが続けられていたことを実感した。・毛長川流域の伊興地域が政治、経済の中心的な役割を果たした遺跡だったことを学びました。・足立区に住んでいるがこんな歴史溢れる所とは知りませんでした。・豊富な資料を頂き、史跡見学をして改めて足立区の貴重な遺跡跡を知り感動致しました。

報告担当者所感

今回の講座で紹介された伊興遺跡跡や白旗塚古墳群は、足立区内で唯一現存する貴重な古墳群です。中でも子持勾玉等、大陸との交易や大和朝廷との繋がりを示す重要な遺物も出土しました。かつてはかなり多くの古墳が存在したと伝えられて居ますが、現在、多くの古墳は開墾(かいこん)などによって失なわれ、現在も正確な位置は未確認。開発が進むことによる遺跡調査の難しさや課題も浮き彫りにされました。

足立区北部地区にある遺跡群より出土した貴重な埋蔵文化財を広くあだち区民に発信、周知出来たことが、受講者のアンケート結果からも伺えます。豊富な資料を基に講義された内容はシニア世代の学び直しが出来るのものとして好評価を得られた講座となりました。

(金子勝治)

五大浮世絵師展 歌丸・写楽・北斎・広重・国芳

会員の研修を目的として、上野の森美術館で開催されている浮世絵「五大浮世絵師展 歌磨・写楽・北斎・広重・国芳」の見学会を行いました。上野の森美術館は、上野恩賜公園内にある美術館・博物館で、唯一の私立美術館として広く知られ、多くの人に親しまれています。



展示内容は、浮世絵が最も成熟し、黄金期と呼ばれた江戸中期（天明・寛政期）。多くの浮世絵師が活躍したその時代に、最も輝きを放った5人の浮世絵師の作品が一堂に会する展覧会です。女性を優麗に描いた喜多川歌磨。劇的な役者絵で人気を博した東洲斎写楽。風景・花鳥・人物と森羅万象を独自に表現した葛飾北斎。名所絵を中心に浮世絵に新風を吹き込んだ歌川広重。その画風で大いに存在感を發揮した歌川国芳。美人画、役者絵、風景画など各分野で人気を博した五大浮世絵師の代表作を中心に江戸時代を彩った浮世絵5大絵師の約140点の展示を、ナビゲーターを務める歌舞伎俳優の尾上松也さんの、五大浮世絵師の個性あふれる作品の魅力、描かれるストーリーを絵師にまつわるエピソードも交えた音声ガイドで聴き、江戸時代のアートを充分に堪能致しました。



第一章は「喜多川歌磨 物想う女たち」。安永4年（1775年）に富本本淨瑠璃正本でデビューした歌磨は、寛政3年（1791年）頃より葛屋重三郎の耕書堂から美人大首絵を刊行します。女性の内面性に迫る独自の様式は人気を集め、美人画の第一人者へと登りつめていきました。

「喜多川歌磨「教訓親の目鑑 俗二伝 ばくれん」享和2年（1802年）頃」
(*ギヤマンの器で喉を鳴らすように飲み干しているばくれん)



第二章は「東洲斎写楽 役者絵の衝撃」。現在もその正体が謎に包まれたままの浮世絵師である写楽は、寛政6年（1794年）に江戸三座の役者を題材にした雲母（きら）摺りの大首絵を一度に28枚発表し、寛政7年（1795年）正月公演の舞台を最後に一切作品を出していません。その活動期間はわずか10か月ほどでした。

「東洲斎写楽「二代目嵐龍藏の金貨石部金吉」寛政6年（1794年）」



第三章は「葛飾北斎 怒涛のブルー」。春朗の名で役者絵デビューを果たした葛飾北斎は、その後次々と改名し、その度ごとに摺物、錦絵、絵手本類、肉筆画と注力する興味の対象が変化していきました。嘉永2年（1849年）に90歳で亡くなるまで、精力的に絵を描き続けた北斎は、代表作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」をはじめ、世界中で知られる作品を多数残しています。

「葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」天保2年（1831年）頃」



第四章は「歌川広重 雨・月・雪の江戸」。街道絵や名所絵などで知られる広重は、ゴッホやポスト印象派の画家たちにも影響を与える存在となりました。「東海道五拾三次之内」シリーズは、ただの風景画の枠に収まらず、旅人やそこに住んでいる人々の息づかいまでが聞こえてきそうです。

「歌川広重「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」安政4年（1857年）」



第五章「歌川国芳 ヒーローとスペクタクル」。

大きな画面を使った斬新な構図の武者絵、西洋画を意識した風景画など、インパクトのある絵が特長の広重。長い下積み時代を経て、文政（1818年～1830年）末頃に刊行された錦絵揃物『通俗水滸伝豪傑百八人之一個』で一気に知名度が上がります。

「歌川国芳「相馬の古内裏」弘化年間（1844-48年）頃」



特別展示として飾られている尾上松也さんの浮世絵作品。

「石川真澄「挑む」尾上松也「挑む第八回外伝」より平成28年（2016年）」

（*五大浮世絵展では、絵師一人の版画に1枚の写真撮影が許可（北斎のみ2版画）されていたので、それらの作者と作品を紹介いたしました。）
(金子勝治)

令和7年1月 運営委員会 報告・連絡

日 時：令和7年7月1日（月）15:00～15:30
場 所：生涯学習センター：5階 研修室4

代表挨拶

皆さまご苦労様です。暑い日が続きますが、体調を崩さないよう、ご自愛ください。

6月は「中世古文書講座」が、3回に亘って開催されましたが、難しいタイトルにも関わらず、公家の有力者に対して（申文）で昇進を狙う書状や、土地の権利を巡って起こされた訴状などが紹介され、受講生からは、解説が分かりやすく面白い、資料も説明も大変素晴らしかったとの好評価を受け受講者と共に楽しく学ぶ事ができました。

7月3日からは「古代の足立」が座学と現地学習の2回講座として始まります。特に2回目の現地での散策では特に暑さ対策に気を配っていきたいと思います。スタッフの皆さん、よろしくお願ひいたします。

議 事

（1）情報交換

- ・令和6年度大学塾講座実施報告書 完成、配布
6/2～会員、顧問、講師、足立区関係部署へ配布、郵送した
6/16 足立区生涯学習支援課 江連課長、渡辺係長、宮入様へ報告書持参、説明した
地域学習センターへ生涯学習支援課より送付頂いた。 金子、福田
6/18 足立区中村教育長、松野総務部長へ報告書持参、説明した

（2）月例会開催について

- ・6月24日（火）上野 上野の森美術館 五大浮世絵師展視察、研修 5名参加
- ・7月16日（水）暑気払い
- ・8月 休会

（3）あだち区民大学塾：講座企画会議：7/1（火）、8/1（金）、検討会議：7/16（水）、8月休会

- ・6月 中世古文書 中世人の昇進・裁判 6/8、15、22（日）研1 応募者41名—受講者35名
- ・7月 古代の足立 7/3（木）研1、7/10 遺跡公園現地学習、応募者 44名
- ・8月 なし

*センターより NHK関連文化講演会の運営ボランティア依頼あり参加者検討する
特別展「深宇宙展～人類はどこへむかうのか」

8/11（祝・月）2時～3時30分 講堂 できる担当、人数の回答する
(会場 2名、司会1名、記録1名)

*大学塾講座の12月開催予定講座「江戸、幕末関連講座」を講師と折衝する

（4）各部局からの報告および提案

①学習支援部：7/16（水）13時～9月講座（三島由紀夫講座）チラシ封入作業

②ボランティア活動推進部：

- ・あだちサークルフェア 2025；10月11.12日開催 募集締切日 4/30：参加申込済
ホワイエの場所決定、白板3枚確保、チラシ配布等役割分担は人員不足でできないと回答する
チラシの広告を申し込む。次回実行委員会は7/19：渡辺さんが出席する
- ・NPOフェス（11/15、16）については不参加とする。来場者が当会の狙いと合わない
→ボラ活部よりNPOフェス事務局へ不参加連絡する。

③事務局：ニュース発送7/1（火）、事務局部会7/11（金）6月決算、

④広報グループ：楽学ニュース319号発行 ホームページ7/1発信、メルマガ221号発行

（5）令和6年度事業報告、7年度事業計画、役員体制を 東京都へ報告

6月 事業報告（送付済）、7月 新役員体制報告

（6）会員募集

- ・メルマガ 9月1日号以降会員急募を掲載中、ホームページに「入会のお誘い」掲載中
- ・あだちサークルフェアで勧誘、NPOフェスティバルで勧誘した→ サークルフェアで2名入会頂いた
- ・大学塾講座で会員募集案内を実施中

（7）その他

- ・社会教育 7月号 回覧

次回運営委員会 8月1日（金）15:00から（研4）

生涯学習センター 講座情報

◎講座名：震災の人流データ分析から見る 大災害時の避難と予測

あだち 100 年大学講座

日 時：9/13（土）午前 10 時～11 時 30 分

定 員：40 人（対面）、10 人（オンライン）

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター研修室 1（対面）
講 師：龐 岩博 氏（Pang Yanbo）

（東京大学空間情報科学研究所
関本研究室 特任講師）

内 容：皆さんのが日々使われる携帯などの位置情報に基づいて、現在人の流れに関する様々な研究が行われています。こうした研究は、災害の時の避難計画などにも自治体で活用され始めています。実際の動きを見て知ることで、科学的な視点から防災を考えてみましょう。

◎講座名：日本の半導体産業の行方

米中摩擦と AI 開発競争

日 時：9/27（土）午後 2 時～3 時 30 分

定 員：30 人（対面）、10 人（オンライン）

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター研修室 2（対面）

講 師：小林 哲也 氏

獨協大学 経済学部 経営学科 教授

内 容：第 5 世代通信規格（5G）の登場や生成 AI の登場などで、新しい技術の要となる半導体の性能に注目が集まっています。その高性能な半導体の生産を巡って、アメリカによる対中包囲網が敷かれています。日本も、台湾 TSMC の工場建設やラピダス援助などで、半導体産業の再編成に参入しようとしています。本講座では、半導体産業を中心とした米中摩擦の現状と、日本の半導体産業復活の可能性について検討していきます。

お申込みは：電話（03-5813-3730）又は直接窓口
インターネット【近所 de まなびナビ】で検索
イベント・講座情報一講座予約システム



足立区堀ノ内公園「推定 2 千年前の大賀ハス」

令和 7 年 月例会のご案内

令和 7 年 8・9 月「月例会」のご案内 ・8 月月例会は猛暑期の為、休会致します。

・9 月月例会：9 月 17 日（水）午後 3 時より
内 容：「サークルフェア 2025 展示内容検討」

（ボランティア活動推進部）

楽学インフォメーション

★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
8 月 1 日（金）午後 3 時～4 時 研修室 4
9 月 1 日（月）午後 3 時～4 時 研修室 4
- ◎ 月例会
9 月 17 日（水）午後 3 時～ ワークルーム
- ◎ 学習支援部
9 月 17 日（水）午後 1 時半～2 時 研修室 4
- ◎ 事務局
8 月 20 日（水）午後 1 時半～ ワークルーム
9 月 10 日（水）午後 1 時半～ ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
9 月 17 日（水）午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
8 月 1 日（金）午後 2 時～3 時 研修室 4
9 月 1 日（月）午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
9 月 18 日（月）

* 8 月は、猛暑期の為、各部会は休止致します。

★お問い合わせ & ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444
E-Mail : tefukuda2002@yahoo.co.jp



編集後記

脱炭素化社会に向けて 世界は脱炭素に向かっているのだろうか

世界はカーボンニュートラルへ一丸となって歩み始めた。米国トランプ政権がパリ協定を離脱しても、世界の脱炭素の流れは変わらない…。といった時代の趨勢（すうせい）をよく聞く。日本では脱炭素のためとしてグリーントランスフォーメーション（GX）計画が着々と推進されており、2050 年 CO2 ゼロが公式の目標となっている。しかし、化石燃料の利用と二酸化炭素（CO2）排出量は 4 年連続で過去最高を更新した。日本より排出の多い世界の 4 大排出国は、イスラエルとイランの軍事衝突や米国の人材への攻撃など中東情勢の悪化などで、脱炭素などしてしない。実際のところ、世界はどこに向かっているのだろうか。世界の CO2 排出量は 2023 年には過去最高になり、37.4Gt（ギガトン）であった。上位 10 か国を並べると、1 位は中国で世界の 33%を排出していた。以下、2 位は米国、3 位はインド、4 位はロシア、5 位は日本で 2.6% であった。つまりこの 5 か国で、じつに世界の 60%を占めている。これら CO2 の大排出国がどうするかで、世界の排出がどうなるか、その趨勢が決まるということです。世界の石油生産量（2024 年）は、米国が最多で、ロシア、サウジアラビア、カナダ、イラン、イラク、中国などは、生産の上位 10 国中の半分が中東地域となっている。CO2 濃度は、産業革命前の 1750 年の 280ppm から 2024 年には 420ppm を超え、1.5 倍、40%以上も増加しています。過去 20 年間における大気中の CO2 濃度の増加のうち、4 分の 3 以上は石炭・石油など化石燃料の燃焼によるものです。そのため各国の一人当たりの CO2 排出量では、工業化の進んだアメリカ、ロシア、日本などの先進国が大きな割合を占めています。産業革命以降の化石燃料の使用が増え、その結果、温暖化への影響度の大きい大気中の二酸化炭素の濃度も増加しています。森林は二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を抑制する役割を担っています。大気中の CO2 の吸収源である森林の減少も原因となっており、CO2 は年々増加、地球の温暖化を助長し異常気象や自然災害のリスクを高め生態系のバランスを崩す可能性も高まりつつあります。

（金子勝治）